

事業所名 多機能型支援事業所 笑みっこ(放課後等デイ)

支援プログラム(参考様式)

作成日 令和7年 3月 1日

法人(事業所)理念	法人理念 感・共・和	
支援方針	家族とこどものウェルビーイングの実現を、共に!!!	
営業時間	8時 30分から 17時 30分まで	送迎実施の有無 迎・あり 送・なし
TEACCHプログラム	環境のなかでさまざまな相互作用により、こどもは成長や発達をする。こどもの状態を矯正していくのではなく、環境にアプローチを行い一人ひとりの持っている優れた能力を発揮できるように支援する事を目標とする。また、保護者や関係者と連携を図りながら移行支援も含めたライフステージに合わせた育ちを支える。TEACCHプログラムという支援の考え方の枠組みを活用しながら、プレイセラピー、ワークシステム、SST、感覚統合遊び、ビジョントレーニング、シェイピング、応用行動分析、PECSなど様々な手法を用いてエンパワメント力を育てる。	
支援内容		
本人支援	健康・生活	<p>【健康状態の把握】 ご利用中に決められた時間で、健康観察を行い心身の状態をきめ細やかに把握を行う。また、保護者や先生など引継ぎの際の連絡事項を、職員と共有する。また、自らの身体状況の変化を伝えられ健康で安全に参加できるように支援を行う。</p> <p>【生活リズムの形成・健康の促進】 睡眠、食事、運動状況の把握を行い、状態に合わせた活動の中におやつ、粗大遊び、微細運動遊び、適宜休息する時間を取り入れ、基本となる生活リズムの調整、体力づくりを行う。苦手な感覚、衣服の調整、室温の管理など快適な生活に向けて合理的な配慮を行う。</p> <p>【基本的な生活スキルの獲得・マネジメント】 先の見通しが持てる生活を目指し、物理的、視覚的な構造化を活用しながら、視覚的なスケジュールを使用し自分が分かりやすい方法で安心して生活が送れるように支援する。最初はマネジメント行いながら、後に自分自身で組み立ててできる行動を増やし、自制心を育みエンパワメント力が向上できるようにステップを踏んだ支援を行う。</p> <p>【アタッチメント】 こどもの困り感に、適切に寄り添い助けることで、愛着形成、情緒の安定を図ります。</p>
	運動・感覚	<p>【姿勢と運動。動作の基本的技能の向上】 食事、排泄、着脱等基本的な動作獲得に向けて、発達段階にあわせた基礎となる運動遊びや、手指課題を通して、姿勢保持や運動、身辺動作の習得、筋力強化、下肢、上肢の安定を強化を図る。活動取り組みにあたり、課題難易度と機能難易度、シェイピング、逆行連鎖等を両立させ、こどもさんが動機づけやすく、意欲的に取り組みやすい手法を用いる。</p> <p>【身体保持・運動の補助的活用】 身体状況に合わせ、個々にあった椅子の高さ、机の高さを調整、又はバスタオルやクッション、牛乳箱などご家庭で手に入る物を活用し、身体保持の補助用具として活用し、身体保持の安定を図る。</p> <p>【保有する感覚の活用/補助と代行手段、感覚特性への対応】 感覚遊びや感覚統合遊びなど、遊びや体験を通して感覚の活用と補填、調整や統合を行う事で領域のさまざまな部分に影響される課題の解決を図ります。また、苦手な感覚には、補助用具の活用、空調の調整、明暗、においなど合理的に配慮する。</p>
	認知・行動	<p>【認知の特性についての理解と対応】 個々の障がい特性、学習のスタイルに応じ、周囲から捉える感覚が適切に処理できるように、視覚的な支援や感覚統合遊びなど、遊びや体験を通して感覚の活用と補填、調整や統合を行う事で領域のさまざまな部分に影響される課題の解決を図ります。また、苦手な感覚には、補助用具の活用、空調の調整、明暗、においなど合理的に配慮する。</p> <p>【知覚から情報を適切に認知し適切な行動への認知過程】 個別、集団療育の中で、その環境から適切な情報に注目し、情報を適切に収集しやすいように物理的な環境の調整、視覚的なスケジュール、ワークシステム、絵カード、視覚的な教材を用いて「可視化」するなど、必要な情報を自ら取捨選択して「自発的な表現」に繋げられる様に認知過程の発達を支援する。</p> <p>【認知や行動の手掛かりとなる概念の形成】 数の概念、色、物、道具の認知、比較を表す形容詞(大小、近い遠いなど)などは、興味関心のあるパズルや絵本、ボックス課題や実体験ができる活動を取り入れ、経験を重ねる支援を行う。</p> <p>【行動障がいへの予防及び対応】 フォーマルなアセスメントやインフォーマルなアセスメントから認知の特性を踏まえ、こどもが容易に理解できる教材・教具を活用し、自分にとっての情報をゆくり適切に処理し、安心して行動へ移行できるように支援する。また、こどもをその環境へ適応させるのではなく、周囲の環境(物、人)の状況や関わり方に注目するなどの特性に対して環境に配慮する。 ※優しい声で、ゆっくり、笑顔で、こどもが情報を受け取る準備がしやすい準備を行ったところで明確で簡潔に指示することが基本。言動自体を否定するのではなく、良い行動を促す支援を行う。</p>
	言語コミュニケーション	<p>【コミュニケーションの基礎的能力の向上・言語の受容と表出】 発達段階や特性に合わせた実物やイラスト、写真、絵カード、ジェスチャー、身振り手振りなど、言語、非言語のコミュニケーション方法、また、文書を組み立てられる教材を活用し、あつまりや活動の中で、発表する機会を作り、具体的な体験や言葉の構成、言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。 また、遊びの時間を大切にして遊びを通して自分の気持ちを表現したり、考えを伝えたり人の意見を聞き入れて相手の意図を理解するなど、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。</p> <p>【コミュニケーションの方法を学び、相手とコミュニケーションをする楽しさを知ってもらいます。また、適切なコミュニケーションの方法を知る事で、不適切な行動を減らし、家族や支援者に気持ちを適切に伝えられることで、愛着の形成を容易にします。</p> <p>【人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得】 こどもが見ている世界に注目し、こどもの視線と支援者の視線を合わせる所から共同注意する体験を繰り返し、相手と同じものを見ている相手に受け入れてもらった嬉しさを体感し、コミュニケーションの楽しさを実感させる。</p>
	人間関係社会性	<p>【アタッチメントの形成と安定】 こどもを否定しない、こどもの行動を認め、環境を調整し工夫する。自発的に話す、聞く、触る、求めるなどのコミュニケーションを通して、人との関わりが安心できる関係を築き、その信頼関係を基盤として、情緒の安定を図る。情緒が安定する中で、興味関心のある物や活動を活用しながら周囲と関わり、人間関係を形成する為の支援を行う。</p> <p>【遊びを通じた社会性の発達】 遊びを通して、折り合いや我慢、交換、順番など相手と関わる上で必要なスキルの獲得に向けてステップで支援する。大人との遊びで体験し、経験したことを、こども同士との遊びに一般化させると同時にステップで仲間づくりと集団への参加に結びつける。 【自己理解と行動の調整】 発達段階や個々の特性を理解し、合理的な配慮を行い、自分が得意なことや苦手なことを理解し苦手なことは工夫でカバーし、気持ちや感情の調整ができるように、苦手な事への工夫や対処の仕方と一緒に考え物に出来るように支援する。</p>
家族支援	<input type="checkbox"/> 親子療育 <input type="checkbox"/> 相談 <input type="checkbox"/> 面談 <input type="checkbox"/> 学習会 <input type="checkbox"/> 兄妹支援 <input type="checkbox"/> 上記を通して、子育てや関係機関との悩み相談、助言、関わり方を学ぶ学習会や、就学、進学、就職等へ情報提供などのサポートを行う。	移行支援
地域支援・地域連携	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、市町、教育、かかりつけ医、他の療育先、相談支援事業所、自立支援協議会等と連携を図り、情報を共有することにより、こどもの理解を一層深く、円滑に繋がっていくように連携を図る。	職員の質の向上
主な行事等	<input type="checkbox"/> 親子参加型の企画 <input type="checkbox"/> 避難訓練年2回 <input type="checkbox"/> 防犯訓練1回 <input type="checkbox"/> 衛生管理・事故防止訓練 年2回 <input type="checkbox"/> 虐待防止・身体拘束研修 <input type="checkbox"/> 安全計画策定見直し <input type="checkbox"/> 子どもだけへの企画 <input type="checkbox"/> 兄弟児を含めた企画	